

## 計算では表せない「感情」

— AI を音楽に用いるメリットを教えてください。

人間の脳のデータ量は有限ですが、AI はコンピュータのメモリが許す範囲では、いくらでもデータを入れることができるんです。AI を使うと、5 時間の曲を音楽理論に忠実な形で生成したり、30 秒間で 500 曲を生成したりするといったことができます。

— AI を用いると人間にはできなかったことが可能になるんですね。

AI は、囲碁や将棋のような計算を用いて正解にたどり着ける分野において、とても良い性能を発揮します。一方、感情のような計算を用いて再現することのできない分野には、上手く対応することができません。音楽においては感情の表現が何よりも重要であり、感情がなければ聴く人の心を動かすことはできないんです。あくまでも、AI にできるのは計算に基づいて行われる「生成」に限られます。

— 今後、感情を必要とする「作曲」を AI が行うようになることはないのでしょうか。

現在は、それはかなり難しいことだと思います。人間の感情の中にはおそろく、それを用いる我々でさえも意識していないデータが入っています。人類が誕生してから代々受け継がれてきた、あらゆる

DNA やデータが感情の基になっているのかもしれませんが。人間が当たり前に行っている感情の表現は非常に複雑で、それを用いる我々人間でさえも感情とは何かを説明することができないんです。人間の複雑な感情のデータをもしすべて知ることが可能であれば、AI は音楽の中に感情を表現できるかもしれません。ただそれは簡単なことではありません。

— 現在の技術をもってしても、感情は解読できないんですね。

少なくとも現在は難しいでしょう。しかし、そもそも AI を人間に近づける研究

自体、人間の知能、さらには感情をプログラミングだとみなすことに他なりません。人間の感情を構成しているものは決して科学を超越した漠然としたものではなく、とてつもなく膨大なデータがプログラミングされたものではないのでしょうか。AI の研究をされていて面白いと感じることは、学ぶたびに AI だけでなく人間についても深く知ることができる場所です。AI の研究を始める前は、まさか自分がこんなに人間について考えることになるとは思いませんでした。AI の研究は人間について知ることができる一番の方法です。

